

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	西村 志保
職 位	グローバル COE 研究員（短時間勤務）
<p>研究概要</p> <p>博士論文の分析枠組みとして使用した「感情労働」をもとに、芸者と保育士とで「あきらめる」ということばが聞かれた瞬間に関して考察を行う。</p> <p>「あきらめる」は、芸者からは「母になること」「母として生きて行くこと」に関する文脈で、保育士からは「自分の好きなことをする時間」に関してそれぞれ断念したと語られる時に使用される。それは自らの感情がコントロールされているために表現されたと理解できるのではないかと考えている。こうした二者の本質化された女性性について考える。</p> <p>また、それが聞かれた瞬間は、筆者が女性であるということと語りの当事者と分かり合えた瞬間でもある。その瞬間を共有するさいのワーカーとしての筆者のフィールドにおける位置づけについても考察を行う。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>著書</p> <p>① 『旧軍港市転換法』（1950 年）成立後の呉をめぐる記憶——朝日遊廓の女性たちのその後—— ひろしま女性学研究所 2012 年 9 月提出 現在印刷中</p> <p>論文</p> <p>① 『芸者の民族誌的研究—東京の花柳界を事例として』 広島大学大学院総合科学研究科提出博士論文 現在審査中 2013 年 3 月受理予定</p> <p>② 「消費される花柳界のイメージと、顧客が求めるもの——A 花柳界の事例に関する一考察——」 広島大学アジア社会文化研究会提出査読論文 現在印刷中 3 月刊行予定</p> <p>報告</p> <p>① 「『あきらめる』ということばが聞かれる瞬間——芸者と保育士との比較を通して」 GCOE 出版プロジェクト「フィールドワークにおける公共圏親密圏」2013 年 3 月提出予定</p> <p>その他</p> <p>学会発表</p> <p>① 「芸者の売り」の選択可能性と芸者アイデンティティ 第 46 回日本文化人類学会分科会 2012 年 6 月発表</p> <p>② 呉から「女性化された記憶」を問い直す カルチュラル・タイフーン 2012 2012 年 7 月発表</p>	